

令和 8 年 5 月記者会見

質疑応答の概要

①自走式ロープウェイ Zippar・富谷市長試乗会

Q.

今回の試乗会に参加する目的を教えてください。

A.市長

今回の試乗会につきましては、以前から Zip Infrastructure 株式会社 須知高匡代表取締役 CEO から福島試験線ができれば実際に試乗していただきたいというお話はいただいております。私自身も試験線ができれば早々に試乗させていただきたいと思っていたところです。そして今回、日程の調整がつかまして、6月1日に訪問させていただくことになりました。令和7年度に自走式ロープウェイ Zippar の導入可能性調査を行い、その結果、物理的には導入が可能ということで、今年度も引き続き、自前で詳細調査を行っているところでございます。今回そういった意味でも実際に試乗し、今後に向けて様々な詳細部分についても須知代表取締役 CEO と直接お話させていただければと思っております。なお、現在国土交通省に新たな軌道系公共交通として認可の申請を行っているところですので、そちらの進捗状況なども確認したいと考えております。

Q.

今回はロープ部の試乗になるということですか。

A.市長

そのとおりです。自走式ロープウェイ Zippar は、レール部とロープ部をうまく接続させ、二本のロープで走行することにより、風に強く、カーブできるところが特徴ですが、まだ直線区間となるロープ部しか出来上がっていないので、カーブ部分の試乗は今後ということになります。

Q.

富谷市では、ロープ部とレール部どちらで整備する予定ですか。

A.市長

ロープ部とレール部は一体のものになります。両方ないと自走式ロープウェイ Zippar は整備できません。ロープ部だけだと直線での移動しかできませんが、レール部を使うことでカーブすることが可能になります。

Q.

資料の 6 行目に「昨年、レール部の試乗が行われましたが」とありますが、市長も試乗されたのでしょうか。

A.市長

担当職員は試乗しましたが、私はしておりません。今回の試乗が初めてとなります。

Q.

市長が前回視察に行かれたのは昨年の何月ですか。

A.市長

昨年の 4 月です。

Q.

実際に試乗してみて確かめたいポイントがあれば教えてください。

A.市長

実際に試乗することによって、乗り心地や音の問題等も含めて体験できればと思っております。本来は時速 30 キロ以上で走る予定ですが、今回はまだそこまでスピードが出ませんので、本格的なことまではまだ完成しておりませんが、少なくとも試乗することで感じられるものは大きいと考えています。

②地域における不登校のこどもへの切れ目のない支援事業の実施

Q.

支援事業につきまして、昨年度は相談窓口の設置や交流会などを開催されていると思うのですが、今年新たに行う予定の取組はありますか。

A.子育て支援課長

新たな取組といたしまして、今年度は昨年の取組の際に築いた教育部門とのつながりをより深化させるということで、教育部門との連携をする上で、必要な情報の一元化を図る管理体制の構築を検討し、よりスムーズに不登校の生徒を支援できるよう切れ目のない支援体制の充実を図っていく予定です。また、より多くの方々に向けて支援を行うことができるように、周知等も積極的に図っていきたいと考えております。

Q.

不登校出現率が、令和 5 年度に大幅に増えています。何か調査方法に変更があったのでしょうか。

A.教育長

令和 5 年度分の数値につきまして、特に集計方法に変更はありませんが、小学校は約 2 倍

になっている状況でございます。

Q.

数値が増えた要因はなにか分かっているのでしょうか。

A.教育長

要因につきましては調査しましたが、特定に至ることができませんでした。不登校に至るお子さんの要因につきましては、家庭や学校の中でなど、様々な要因が複合的に重なっているものですから、なかなか特定することが難しい状況でございます。

Q.

不登校の出現率が全国平均や宮城県平均を上回っているということで、今回で2年目となるこの事業に対して期待することや今後取り組んでいきたいことがあれば教えてください。

A.市長

不登校特例校を開設するなど、どの自治体よりも率先して様々なことに取り組んできた中で、数値がこれほど増え、令和5年度のこの数値を見たときは、私も本当に衝撃でした。私自身、こども家庭庁に直接足を運び、ご指導いただきたいということをお願いして、そこからこども家庭庁のご指導、ご支援をいただきながら、モデル事業を行ったところです。特に、相談窓口や当事者同士の懇談など、そういった場を設けてきたことで、その効果が確実に出てきていると思っています。昨年の一年目のモデル事業の成果を含めて、今年度さらに充実させていくことによって、確実に不登校の児童・生徒を減らしていきたいと考えております。学校に行くことだけが正しいとは思っておりませんが、学校に行けない当事者はもちろん、そのご家族も悩んでいる状況の中で、一人でも多くの生徒が今後の人生を前向き過ごしていけるよう、学ぶ機会などをしっかりと確保できるようにしていきたいと思っています。

④とみやブルーベリースイーツフェア 2026 開始式の開催

Q.

ブルーベリースイーツフェアの参加店の対象スイーツは、ユートミヤ内のスイーツステーションで買うことができますか。

A.産業観光課長

ユートミヤ内のスイーツステーションでは、参加店の二店舗はいくつか通常スイーツを常時販売しておりますが、ブルーベリースイーツフェアの対象スイーツは販売しておりません。スイーツステーションを核としてスイーツのまちを掲げているところですが、そこから各店舗の方に足を運んでいただけるような仕掛けをしていきたいと考えております。